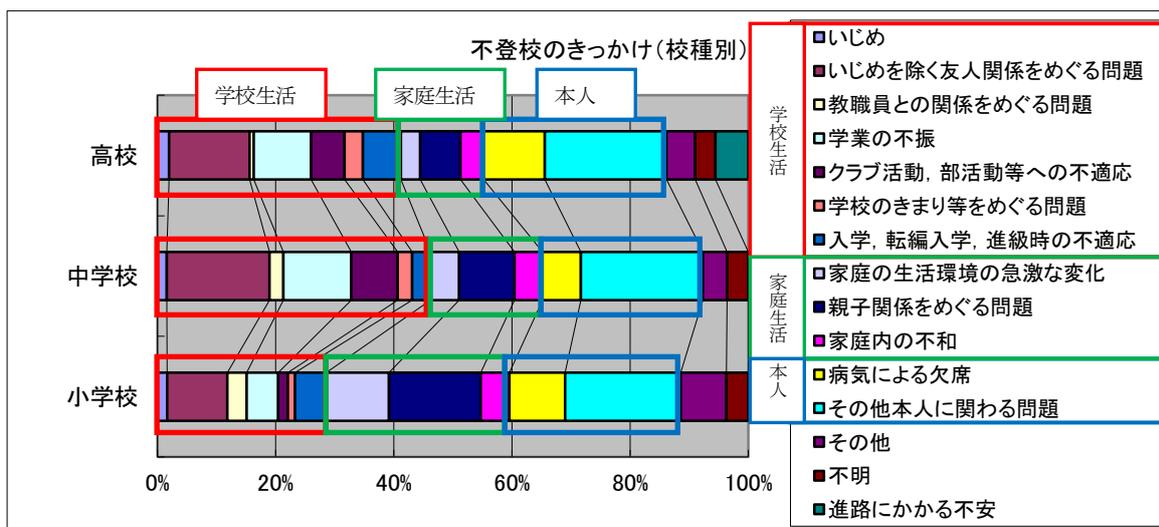


不登校対策：アセスメントに基づいた支援計画

平成21年度問題行動等調査の結果では、「不登校となったきっかけとして考えられる状況」について、小学校では家庭生活に関係する問題、中学生では学校生活に関係する問題、高校では本人に関係する問題が、他の校種より多いという特徴がみられます。不登校は、さまざまな問題が絡み合い、本人へのアプローチだけでは改善が見られないことがあり、児童生徒理解の視点に立ち、アセスメント（問題の背景・原因の見立て）し、適切な支援計画を立てて対応する必要があります。



アセスメントの視点

児童生徒に関して情報を集めることにより、「わかる」「理解を深めること」

I 情報の収集（情報把握）

- ◎児童生徒個人の情報
- ◎児童生徒を取り巻く他者や環境の情報
- ◎児童生徒と他者や環境との関わりの情報

II 情報の共有（状況理解）

- ◎複数の教師で共有

III 情報の判断（対応方針の決定）

- ◎誰が、どのように苦戦するのか
- ◎誰が、どのような援助ニーズがあるのか
- ◎どのような指導・援助方針や目標か

IV 情報の検証（方針や対応の検討・修正）

- ◎誰が、誰に、いつまでに、何をするかを決定し、実行する

家庭生活の背景を見取る視点

不登校をはじめとして、児童生徒の示す様々な行動の背景には、家庭生活や保護者の養育姿勢が大きく影響を及ぼしています。子どもの行動を理解し保護者と連携し、子どもの不適応行動を改善するには、家庭生活のアセスメントが不可欠といえます。

家庭生活のアセスメントには、①家族構成②影響ある親戚関係③保護者の職業・勤務形態・収入経済状況④保護者の養育姿勢⑤家庭内のキーパーソン⑥子どもの示す行動の保護者の対応⑦子どもの示す行動の保護者と学校の理解の違い⑧夫婦関係や親子関係等の家族間関係⑨保護者自身の特性（発達障害や精神疾患の疑い）⑩保護者と学校の関係⑪保護者の学校の捉え方⑫保護者が頼りとする教職員⑬保護者が関わって来た相談・関係機関⑭家庭の近隣地域との関係⑮家族夫々の「困り感」⑯家族の長所や強み⑰家庭・家族の変化等を挙げることができます。

一度に全ての事柄を短時間にアセスメントすることは不可能ですから、校内で役割分担を行い、子どもや保護者への関わりを通し、他機関との連携の中で行うことが必要です。ポイントは、常にアセスメントの視点をもって指導・支援計画を立て、評価を行うことです。（社会福祉士 坂口繁治）

不適応対策に係る情報を発信していきます。不適応対策指導の参考に活用していただければ幸いです。

岩手県教育委員会事務局学校教育室生徒指導担当 (019-629-6145)

<http://www.pref.iwate.jp/list.rbz?nd=1813&ik=3&pnp=86&pnp=1779&pnp=1813>